

教授 客員 研究科 工学 マネジメント 大学 工業 芝浦  
 谷口博昭

教科書「道の駅」が、全国「道の駅」連絡会から発刊されました。道の駅の「誕生と成り立ち」／「しくみ」／「いま」／「これから」が図表を駆使し分かり易く記されています。現在の道の駅の改善や

## 教科書「道の駅」

設立登録を検討されている関係者にとって大いに参考になると期待されます。

道の駅には休憩、情報発信、地域の連携の三つの機能が求められますが、単なる休憩施設や物品販売に過ぎないとか情報発信なども物足りないとか

の批判も聞かれます。教科書に学びつつも単なる物真似で終わってはいけません。「守破離」の精神で独自性を有し差別化できる「道の駅」を目指し一定の時間軸を持って進化すること、そうした積み重

## に学び、進化を

ねが相乗効果を上げ、道の駅全体のブランド性を高めていくことが望まれます。

「みちの文化」と言われる我が国ですが「みち」の「み」は接頭語で「みち」＝「ち」であります。「ち」の交わり分かれるところが「ちまた」。

ちまたに人々が集まり賑わい、市（いち）ができ、集落ができ、まちや、向う三軒両隣”の地域社会が形成されてきた「みちの文化」です。

車の止まることにより道路利用者との触れ合いの接点ができ、両者の連携効果が発揮でき相互互恵関係となつていくことが評価されています。

人的物的を問わず地域内外との交流連携を高めると共に施設やサービスの改善・向上に努め「みちの文化」による地域経済社会の形成に資するところが期待されます。道の駅の

防災の拠点としての一環として、非常食を兼ねた新・郷土食を創作し地域外の人に食していただくと共に地域内の方々にも定期的に食していただく試みもなされておりこのオーリング方式の定着・拡大が期待されます。

「地方創生」の拠点に資するため、道行を重視し、「日本風景街道」、「新日本歩く道100選」等の他運動と連携を

高め、「点から線へ、更に面へ」と展開され、より統合化された広域的な「まち」レベルの「地方創生」へと進化することが望まれます。